



沖縄県産テリハボクの皮膚に関連する有用性の評価

分野：資源化学 担当：環境・資源班
支援先：株式会社すま工コ

【研究の背景】

テリハボク(図1)は、耐潮・耐風性に優れることから、防潮・防風林や街路樹として植栽されています。種子から採れるオイルは、タマヌオイルやデュロオイルと呼ばれ、石鹸やクリーム等の化粧品原料としても利用されています。海外産のオイルに関しては、培養細胞系における創傷治癒作用やニキビの原因菌であるアクネ菌 *Cutibacterium acnes* に対する抗菌作用の比較も行われており、産地が異なるオイルで活性も異なることが報告されています。そこで、本研究では沖縄県産テリハボクのスキンケアに関連する機能性を明らかにすることを目的に、種子オイルや葉、枝、根の抽出物について、*C. acnes*に対する増殖抑制効果、試験管レベルでの糖化反応阻害作用を評価しました。



図1 テリハボク (*Calophyllum inophyllum* L.)

テリハボク科テリハボク属の広葉樹。熱帯アジアやポリネシア、日本国内においては沖縄諸島、先島諸島および小笠原諸島に分布し、樹高20 m以上に成長する。

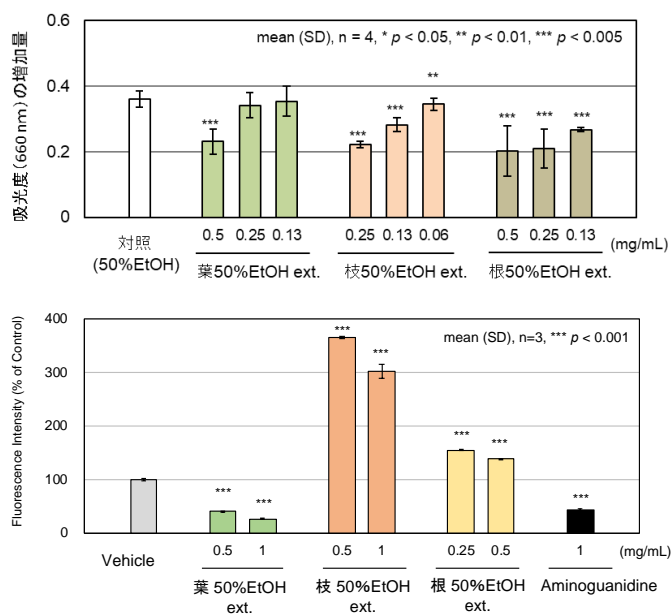


図2 沖縄県産テリハボク葉、枝、根の抽出物のアクネ菌増殖抑制活性(上)およびタンパク質糖化阻害作用(下)

【結果】

葉、枝、根の50%エタノール抽出液がアクネ菌の増殖抑制活性を示すこと(図2上)、葉の50%エタノール抽出液がタンパク質糖化阻害作用を示すこと(図2下)を確認しました。

